

東久留米の学校

東久留米市には、現在、市立学校だけでも小学校が16校、中学校が7校あります。昭和30年代から40年代にかけて大型団地が造られ、人口が急増して次々に学校が建てられるようになりますが、34年以前は小学校1校と3つの分校、中学校が1校でした。

久留米に初めて尋常小学校が開設されたのは、学制が公布された12年後の明治17(1884)年のことです。実際には、その前身とも考えられる学校(三併学舎、黒湧学舎)が学制公布直後に設置されていますが、その位置や記録など、資料はほとんど残されていません。尋常小学校の開設以降も学校の十分な記録はないのですが、学校施設や児童・生徒を写した珍しい写真が残されており、市立学校だけでなく多様な学校が開設された様子を知ることができます。今号では、この写真を見ながら久留米の学校の歴史をたどることにしましょう。

——— 村 立 学 校 ———

久留米で最初の尋常小学校は、前沢村69番地(現在の市清掃課の場所)に建てられた成蹊学校です。翌明治18年には、南沢村673番地(多聞寺敷地内)に共立学校(写真2)が開校します。成蹊学校は久留米西側の前沢・下里・柳窪など、共立学校は東側の小山・南沢などを通学区域としていました。明治22年に8つの村が合併して久留米村が成立すると、村役場が成蹊学校内に併設されます(写真3)。

明治36年には、成蹊・共立の両校に高等科が設置されますが、校舎は前沢の宿屋「江戸屋」を買い受けて修理し、仮校舎としました(写真1)。当時は国の援助も少なく、学校の設置については村の負担が大きかったため、校舎は社寺や民家等の一隅でも差し支えないという状況でした。右の写真は、手前が運動場で現在の第一小学校の敷地の一部に当たり、小金井街道を挟んだ奥が校舎となっています。

当時の学校は尋常科が4学年で、3年までは男女一緒にのクラス、高等科は2学年で男女別でした。学科は、書き方・読み方・図画・算



1 久留米尋常・高等小学校

(大正5年撮影)

